

新潟支店を新築、拡大

第一貨物雪に強くし品質アップ

第一貨物(本社・山形市、武藤幸規社長)は新潟市東区にある新潟支店を建て替え、二十四日、オープンする。特積み向けのプラットフォームで、施設面積は従来の一・四倍。自社集配エリアの拡大、近隣事業所との業務エリア見直しにより、ホーム運営や集配作業の効率化と輸送品質向上を図る。日本海側ルートの貨物基地として、災害時には「危機管理事業所」としての役割も担う。

(矢田 健一郎)



あい 武藤 幸規 社長
あいで 武藤 式 社長
しゅん 武藤 式 社長
さつ 武藤 式 社長

「二ツ車、四ツ車のバスをインドア(屋内)にして、降雪時にも良好な作業環境を確保した」と武藤社長。屋内型の集

配荷さげき場は新新潟支店のポイントの一つだ。新新潟支店(新潟市東区寺山五九五ノ一)の敷地面積は二万二千七平方メートル。旧支店は開設から四十年近くがたち老朽化。スペースも手狭になってきた。新支店は鉄骨造りで、ホーム面積二千八百八十平方メートル。仮眠室を含む

**巨大ひさしと
屋内作業施設**

事務所棟は二階建てで、施設の延べ床面積は二千八百七十平方メートル。旧支店の一・四倍になった。

**エリア見直し
自社化も推進**

もう一つ目を引くのがホーム反対側のインドア仕様になった中・小型車の接車バス。インドア部分は二六×六十九メートル。台を接車できる。「十一メートルが一番使いやすい」と伊藤賢児施設車両部長。目を引くのが長さ十二メートルの大型車が収まる十二・五メートルのひさし(写真の右側部分)。付け根の柱と、ひさしの骨組みで雪の重量に耐える。

「各支店間の横持ちも減らしながら、業務拡大を進めていく(同)」。稼働する車両台数は、運行車が大型四十一台、トラックター三敷き、より一層、顧客三台。集配車一三に沿ったサービスを二提供していく方針だ。

雪や雨の影響を受けず荷物をおける。荷さげはバススペース拡大に伴い、近隣の三条・長岡の二支店との集配エリアを見直す。これまで新潟支店で三条エリアの

部も見えていたが、十月一日以降は三条エリアを三条支店単独で担当。「発着をより細かくやる(安達英雄常務)」。一方で、新潟支店は中継に出していた市内秋葉区、阿賀野市、小千谷市を自社集配に転換。

「各支店間の横持ちも減らしながら、業務拡大を進めていく(同)」。稼働する車両台数は、運行車が大型四十一台、トラックター三敷き、より一層、顧客三台。集配車一三に沿ったサービスを二提供していく方針だ。



12・5メートルのひさしを備えた新施設